

## <コッペリア>

ドイツの作家 E.T.A.ホフマンの小説『砂男』にヒントを得た喜劇。パリ・オペラ座で 1870 年に初演された。

スワニルダ：村の娘、フランツの恋人

フランツ：村の青年、人形と知らずにコッペリアに恋をする

コッペリウス：コッペリアを造った博士

コッペリア：コッペリウス博士が造った自動人形

## 第 1 幕

人形作りのコッペリウスは変人扱いされていた。彼の家ベランダでは、からくり人形のコッペリアが座っているが、村人はコッペリアが人形であることを知らない。

明るく人気者の少女スワニルダはフランツとは恋人同士。しかしフランツは、コッペリアが気になる様子。スワニルダはやきもちを焼く。町に行くコッペリウスが家の前に鍵を落としたことに気づいたスワニルダと友人たちは、好奇心からコッペリウスの家に侵入する。

## 第 2 幕

コッペリウスの家にはさまざまな人形が並べられている。スワニルダたちはコッペリアが人形だったことに気づく。帰宅したコッペリウスに怒鳴られて友人たちは逃げ去ってゆくが、スワニルダは室内に身を隠す。フランツが梯子をのぼりコッペリアに会いにくるが、フランツもコッペリウスに見つかりコッペリウスは当然怒る。が、コッペリウスは自慢の人形コッペリアに眠ったフランツの魂を吹き込もうとする。スワニルダコッペリウスのたくらみを知り、コッペリアになりすまして（人形が命をふきこまれたふりをして）コッペリウスをからかう。フランツも目を覚まし、コッペリアの正体を悟ってスワニルダと仲直りする。

## 第 3 幕

仲直りしたフランツとスワニルダは、めでたく結婚の日を迎え、賑やかな祝宴が始まる。人形を壊されたコッペリウスが怒鳴り込んでくるが、村長のとりなしによって彼も機嫌を直して、二人を祝福して全員でフィナーレを踊る。

## <コッペリアのみどころなど>

ホフマンの原作は、「世にも奇妙な物語」風なかなり奇怪な風変りな小説。バレエではその怪奇性や狂気性を薄め明るい喜劇に変えている。当時バレエにおいては筋や音楽などの扱いが低かったが、『コッペリア』は民族舞踊の利用（マズルカなど）なども含め、素晴らしい音楽と台本の楽しさが、ロマンティックバレエの最後を輝かせた現代に残る作品となっている。